



成丘だより

成増（なります）学びのエリア
（赤二中・成増小・成増ヶ丘小）



成丘小 HP
二次元バーコード

板橋区立成増ヶ丘小学校
学校だより 5月号
令和8年 4月30日
校長 高野 剛一

創立70周年特集 第1弾

校長 高野 剛一

本校は、今年度70周年を迎えます。そこで、「創立70周年特集」として、本校に関連することを取り上げていきたいと思えます。第1弾は、開校当時にかかわることです。

私は本校に着任して3年目になりますが、着任当初から、疑問に思っていたことが2つありました。

- ① なぜ、開校記念日が5月21日なのか？
- ② なぜ、卒業式の回数が周年の回数より少ないのか？
(昨年度は69周年であったが、卒業式は第68回卒業式だった)

この疑問を解決してくれたのが、創立20周年記念誌でした。この記念誌の中に、初代教頭で、第3代校長でもある牧野義輝先生の文章を見付けることができたのです。

開校のころの思い出 牧野 義輝

赤塚・成増両校児童の増加により、この地区を分けて新学区を作り、昭和31年度に本校が開設された。しかし、当初は校舎が未完成のため、赤塚小学校の校舎を一部借用した二部授業と、成増小学校よりの分離児童はそのまま親学級委託という変則的な形での発足であった。

そのため、校舎だけの完成で付帯工事を残したまま、赤塚二中からのもらい水の状態で、取り急ぎ五月二十一日入校式を行うことにした。これは、全校児童が始めて新しい学校へ集う儀式で、事実上の開校式であった。赤塚へ通っていた子どもたちは、嬉々として新しい校庭に集まり、成増よりは先生や先輩に送られて、希望に胸を膨らませた可愛い一年生を先頭に校門をぐって続き、はなやかな幕明きであった。

初代校長松本先生から、力強いお話があり、赤塚小学校長渡辺先生からお祝いの言葉、成増小学校長大日方先生からは記念の品々が渡され、感激した児童代表の希望に満ちた誓いの言葉と続き、新しい門出を祝う親学校代表児童達の大拍手で締めくくった。若葉の香をのせたそよ風が、このうれしいこども達のほほをやさしくなぜ、五月晴れの陽光がさんさんとふりそぐこの校庭での入校式は、誠に印象的であった。この輝かしい日を「開校記念日」と定めたので、他校のそれとは異なる意義のある日で特に大切にしたいものである。

この日より、一年から四年までの児童三百七十余名が八学級に分かれて、本格的な授業を開始し、校長以下十一名の職員ががっちりスクラムを組んで、文字通り新しい学校の基礎作りに取り組んだ。四年生が最上級生としての活動で、他をリードした姿は他に見られない光景で、頼もしい限りであった。

【引用 「東京都板橋区立成増ヶ丘小学校 創立二十周年記念誌」(昭和51年5月)より】

この文章を読み、私の2つの疑問はすぐに解決しました。

- ① 5月21日に入校式を行ったから。
- ② 開校した年は、1～4年生までしかいなかったから。(第1回卒業式は、昭和33年度だった)

そして、開校当時の先生方と子供たちの希望に満ちあふれる息吹のようなものを感じ、とても感動しました。当時の先生方、子供たち、そして地域の方々の思いを引き継ぎながら70年が経ちます。これからも未永くこの地域にとって「我が成丘小」と誇りに思える学校となるよう、70周年という節目の年を子供たちと共に過ごしていきたいと思えます。